

## 古墳のまち・西都市の概要

西都市は宮崎県のほぼ中央に位置し、車で宮崎市街地から約 40 分、宮崎空港から約 50 分のところにあります。

かつては古代日向の都として栄え、『古事記』『日本書紀』に登場する伝承地が市内に数多く残るとともに、日本最大の 311 基の古墳が集まる国の特別史跡「西都原（さいとばる）古墳群」や、天正遣欧少年使節の正史としてローマ法王に謁見した伊東マンショが誕生した国の史跡「都於郡（とのこおり）城跡」があるなど歴史ロマンあふれるまちです。

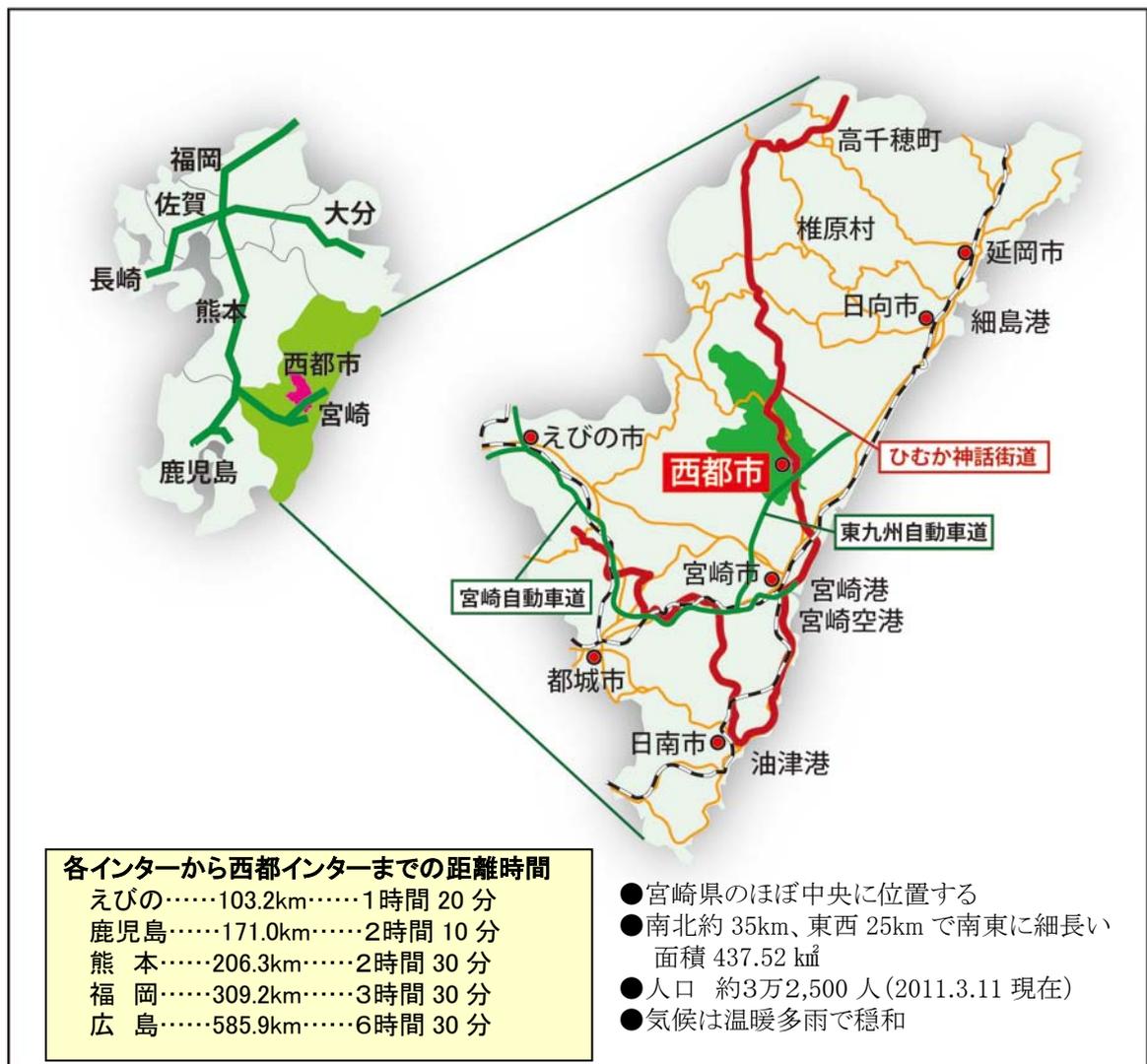
西都原台地には、春は桜 2 千本・菜の花約 30 万本が、秋はコスモス約 300 万本が咲き誇り、年間約 100 万人の観光客が訪れる宮崎県でも有数の観光地です。また、野球やサッカーをはじめとした多くのプロ・アマチュアチームのスポーツキャンプ地としても知られています。

温暖な気候と豊かな大地から生み出される農畜産物は、全国でも高く評価されています。その代表的なものがピーマンやスイートコーン、ニラ、それに完熟マンゴーなどです。

そのほか、東米良のゆずを原料とする加工品や良質な水と甘藷を原料につくられた焼酎もお土産品として人気があります。現在は「市民との協働型社会づくり」を理念に掲げ、「元気な日本のふるさと“西都”」づくりを目指して歩み続けています。

（出典：西都市ホームページ）

## 西都市の位置



## 西都市の特色

九州山地の南部にあたり、市の北部から西部は 1000 メートル級の山々が立ち並んでおり市域の約 70%が山林で、市を北西から南東に一ツ瀬川が貫流しています。

一ツ瀬川は、九州山地の国見山（標高 1036m）から周辺の水を集めて南流し、西米良村から杉安峡谷まで険しい V 字谷を造りながらいくつかの支流を集め、東へ南へと向きを変え、穂北の平野に出ます。左岸に茶臼原、右岸に西都原などの洪積台地を開き、沖積平野をつかって日向灘に注ぎます。西都市の市街地は、この沖積地に形成されたものです。



一ツ瀬川の激しい流れは山を削り V 字谷を造っていった

西都市は他の市町村に比べて施設園芸が盛んで、なかでも「グリーンザウルス」の愛称で親しまれているピーマンは日本一の生産量を誇っています。また、太陽のたまごとして人気の「完熟マンゴー」、甘みの強い「スイートコーン」、ゴーヤ・完熟キンカン・香り高いユズなどが西都市の特産として知られています。

その他、東米良のゆずを使った「ゆずこしょう」や「ゆずポン酢」、ゆずと蜂蜜をブレンドしたジュースなども売り出されています。



西都市を語るとき、なんととっても古墳を抜きには語れません。宮崎県は大淀川・小丸川・一ツ瀬川など大型河川流域に前方後円墳を主体とした古墳群が分布していて、全国的にみても古墳の多いところです。

縄文前期の原口遺跡（三宅）、縄文後期の銀鏡上原遺跡（東米良）などから先史時代から人が住んでいたことが確認されます。弥生時代の農耕遺物も大口川遺跡・寺原遺跡などから出土していて、農耕が始められていたのが分かります。古墳時代にはいると、この地が古代日向の一大文化圏を形成するようになりました。その中心が西都原です。

宮崎県内には二千数百基の古墳があり、その約半数の大小の古墳が西都市内に点在しています。中でも昭和 27（1952）年、国の特別史跡に指定され、次いで昭和 41 年に日本最初の「風土記の丘」構想により特別史跡公園として国の指定を受けた『西都原古墳群』は、東西 2.6km、南北 4.2km の台地上に 311 基の古墳が眠っています。古墳の種類も前方後円墳（32 基）・方墳・円墳をはじめ柄鏡式古墳（10 基余）・地下式横穴（10 基）など、古墳の博物館のようで造営年代も 3 世紀後半から 7 世紀前半のものまであり、バラエティーに富んでいます。このことは、この台地を中心に多くの集落が栄え、古代日向の政治・経済・文化の中心地であったことを物語っています。

6 世紀末から 7 世紀はじめ頃に古墳時代は終わりを告げます。その後、大和朝廷の国家統一により朝廷直轄領「屯倉」が全国に置かれ、日向では西都原古墳群のある「三宅」に置かれたたようです。

その後、大化の改新によって「国郡制」がしかれ日向国は「五郡二十八郷」となりました。一国の支配庁の所在である国府が全国に置かれ、日向の国府は西都原のある三宅の国分に置かれました。現在は、日向国分寺跡には木喰上人作の五智如来をまつる五智堂と石造仁王像が建っています。

奈良時代も終わりに近づくと日向国造（ひゅうがのくにのみやっこ）は衰えをみせ、木花開耶姫（このはなさくやひめ）をまつっている都萬神社の祠官※1 日下部氏が日向の代表的な豪族に成長していきました。※1 祠官（しかん／神社に仕える神職）

その後、豪族土持氏が勢力を拡大し、後の鎌倉時代には地頭に任じられました。やがて南北朝時代はじめに足利尊氏から都於郡（とのこおり）を恩賞として与えられた伊東祐持（すけもち）は都於郡に城を築き、この地を本拠に勢力を拡大していきます。一時は飢肥（日南）・真幸（えびの）・庄内（都城市）・都城などに支配を広げ、「伊東 48 城」といわれるほど日向のほぼ全域を支配し、240 年にわたって栄えました。

しかし、隆盛をきわめた伊東氏も島津氏との戦いに敗れ、豊後の大友相隣をたよって亡命し天正 5 年に没落しました。後に（天正 10 年）キリシタン遣欧少年団の正使として名高い伊東マンショは、都於郡城で生誕しており、この時 6 歳で亡命したと伝えられています。

伊東氏にかわって日向を支配した島津氏は、その後勢力を拡大し一時は九州全土を支配する勢いをみせましたが、豊臣秀吉との高城の合戦で敗れてしまいました。秀吉の九州統一後は、島津氏の分家佐土原藩領となりました。

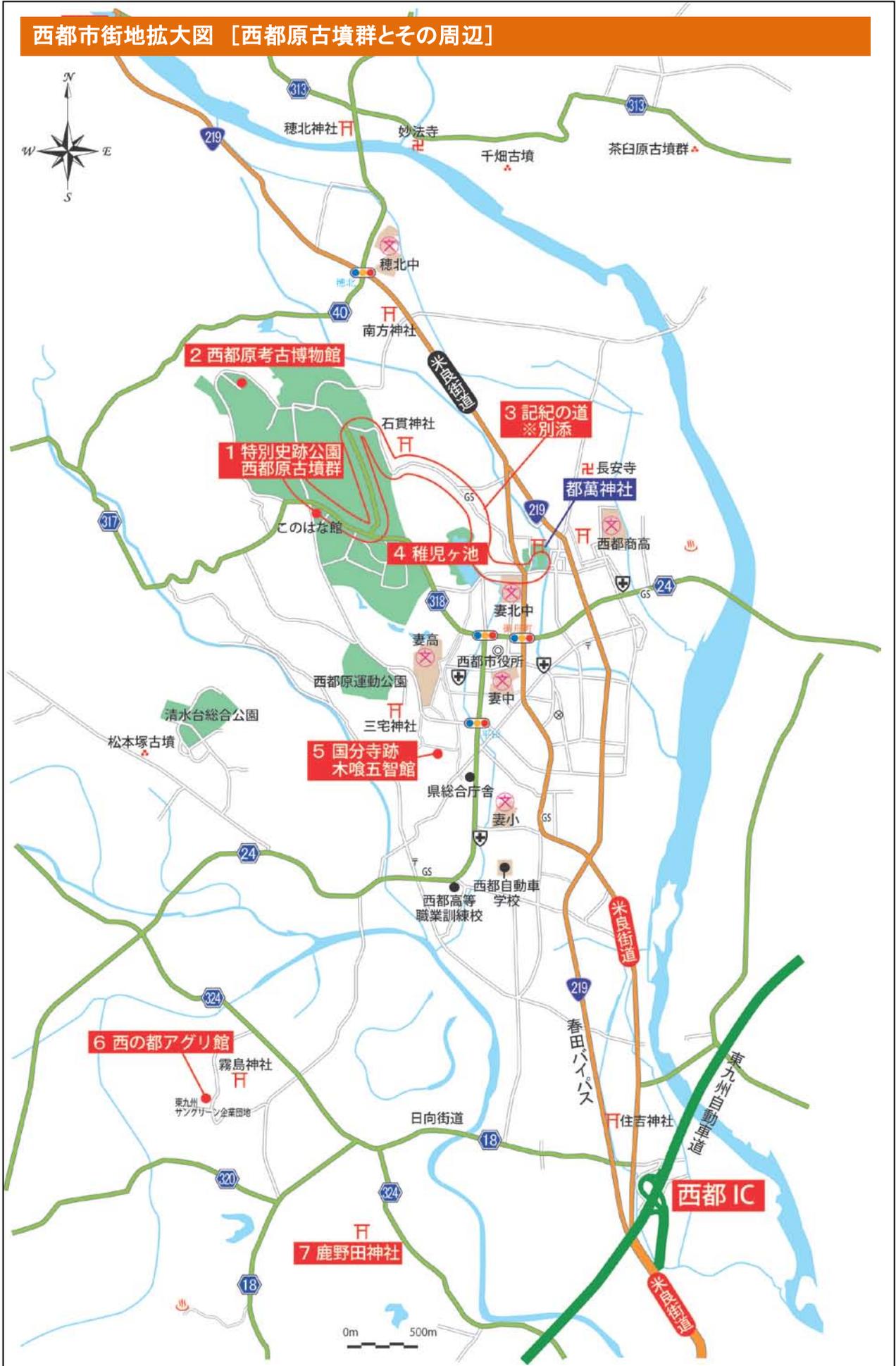
藩政時代になると、穂北（上穂北。下穂北）は延岡藩領となり、藩政中期には幕府領となりました。そして三納・三財・都於郡・妻は佐土原藩領に、東・西米良は人吉藩領となるなど、西都は三つに分割され明治まで続きました。

### ■合併による西都市の誕生・発展

- ・明治 22 年（1889）市町村制実施により全域が「児湯郡」にまとめられる。  
（下穂北村、上穂北村、都於郡村、三納村、三財村、東米良村）
- ・大正 13 年（1924）下穂北村→下穂北町→妻町
- ・昭和 30 年（1955）妻町と上穂北村が合併→西都町発足
- ・昭和 33 年（1958）都於郡村と三納村を合併し、西都市誕生
- ・昭和 37 年（1962）三財村と東米良村を編入し現在に至る



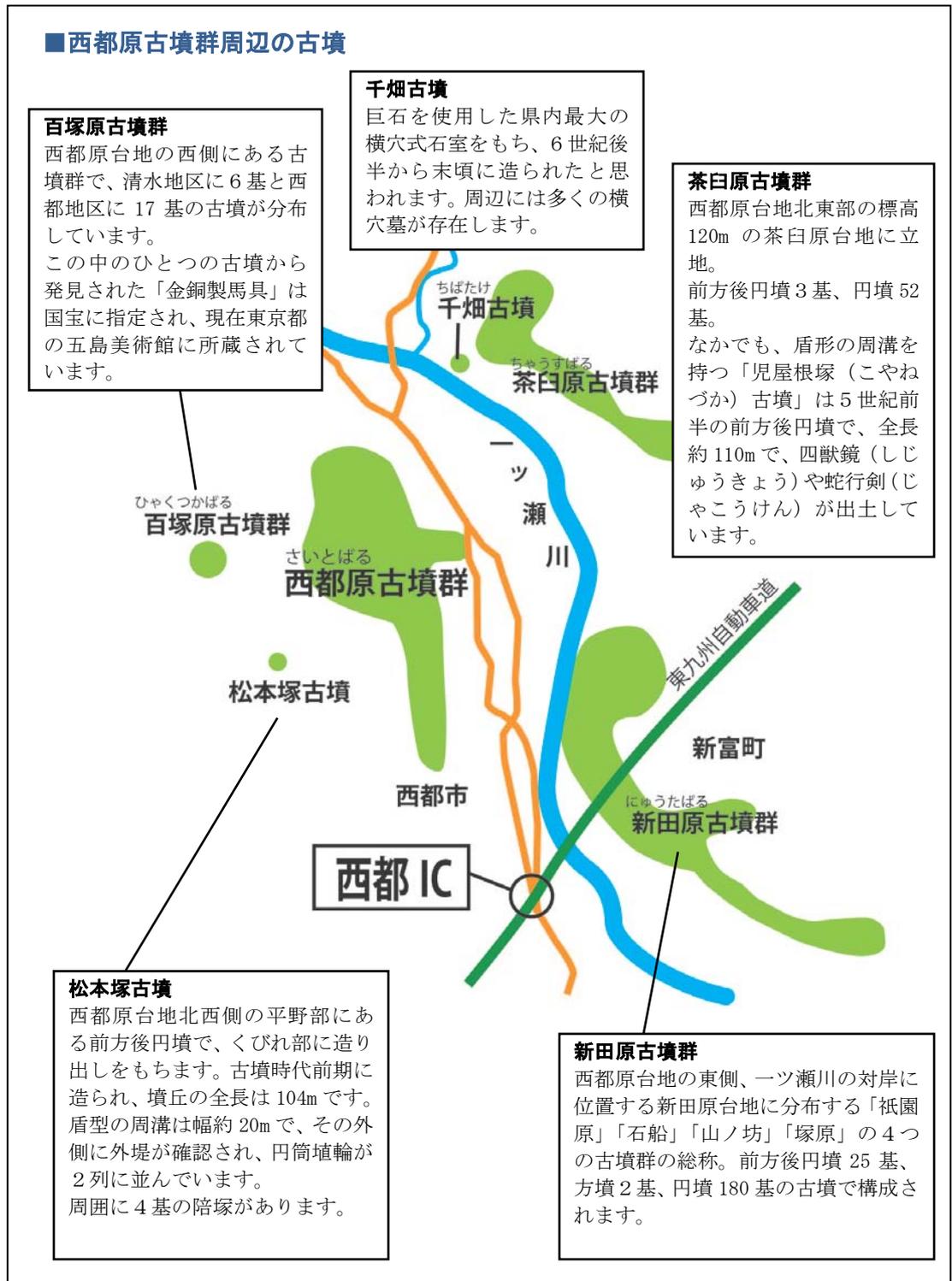
# 西都市街地拡大図 [西都原古墳群とその周辺]



## 1 特別史跡公園西都原古墳群

九州山地の熊本県境に発する一ツ瀬川は、険しい山並みを抜け西都市一帯で豊かな平野をつくり出しています。この豊かな一ツ瀬川流域には、西都原古墳群をはじめ茶臼原古墳群、新田原古墳群（新田原市）など様々な古墳が点在しています。

さらに新田原台地を超えて小丸川の左岸丘陵地に点在する川南古墳群、高鍋古墳群、持田古墳群などを含めると、宮崎県下の大部分の古墳が宮崎中部平野部に密集しています。このことから、古代この地域には多くの集落が形成され、農業生産も旺盛で古代日向の政治経済の中心地帯であったと思われます。



## ■西都原古墳群全体図

西都原古墳群は一ツ瀬川の右岸、標高 60m～70m の西都原台地と呼ばれる丘陵台地を中心に、東西約 2.6km、南北 4.2km にわたって分布しています。中間台地や低地部分も含めて、前方後円墳 31 基、円墳 279 基、方墳 1 基が存在します。また、地下式横穴墓や横穴墓も確認されています。古墳は台地上に一定のまとまりをもって分布しています。



## ■美しい自然とともに眠る西都原古墳群

春、眠っていた大地が突然目覚めたように一斉に色づきます。梅・桜・菜の花と次々に花開き、西都原の大地をカラフルに染め上げます。夏にはヒマワリ、秋にはコスモスが古墳群全体をつつみこみます。



3月下旬、サクラとナノハナが鮮やかなコントラストを見せてくれます。人々はサクラの開花情報に注意し、この一瞬を楽しみに集います。



菜の花につつまれた鬼の窟古墳





高取山公園のミツバツツジ。全山が深紅に染まります。



夏はヒマワリ、秋はコスモスが西都原全体を彩ります。



良好な自然が残る西都原古墳群で行われる自然観察会。珍しい野草も見られるようです。

## ■男狭稻塚(おさほづか)・女狭稻塚(めさほづか)(陵墓参考地)

西都原古墳群のシンボリックな古墳が男狭稻塚・女狭稻塚です。男狭稻塚・女狭稻塚古墳は、うっそうと樹木に覆われた「陵墓参考地(宮内庁管理地)」に指定されているので立ち入ることはできません。



男狭稻塚は、古来から地域の信仰の対象とされていて、可愛塚(えのつか)と呼ばれ、天孫ニギノミコトの御陵であるという伝承が伝わっています。皇室の先祖と関係があるということで、宮内省は明治28年12月、女狭稻塚も含めた3万2千坪の地域を陵墓参考地に指定されました。



### ■男狭稻塚

男狭稻塚は国内最大の帆立貝形古墳で、墳丘の長さ175mあります。埋葬された人についてはいろいろな説がありますが、髪長媛(かみながひめ)の父、諸方君牛諸井(もろかたのきみうしのもろい)とも考えられています。地元の伝承ではニギノミコトの墓と伝えられています。

正確な墳形をあきらかにするために、女狭稻塚とともに平成16年度から地中レーダー探査による調査を実施しています。

### ■女狭稻塚

女狭稻塚は九州最大の前方後円墳で、墳丘の長さは約180mあります。被葬者は『日本書紀』に記載されている仁徳天皇妃の髪長媛(かみながひめ)とも考えられています。伝承ではコノハナサクヤヒメの墓と伝えられています。



## ■171号墳

西都原古墳群唯一の方墳で、女狭稻塚の陪塚（ばいちょう）といわれています。大きさは一辺 25m、高さ 4.5m で、周溝をもっており、墳丘は2段に築かれ、表面は葺石で覆われ、円筒埴輪列が施されていました。大正時代の発掘調査で家型埴輪片や甲形（よろい）埴輪等も出土しています。西都市内には約 600 基ほどの古墳がありますが、方墳はこの第 171 号墳と三財原の常心塚古墳しかなく貴重な古墳です。



## ■鬼の窟(おにのいわや)古墳(206号墳)

西都原の中央部、男狭稻塚・女狭稻塚の東南約 300m の地点に位置します。西都原古墳群で唯一の横穴式石室を持つ円墳で、墳丘の外側に土塁をめぐらせています。7世紀初頭に造られたといわれていて、このように土塁をめぐらせた古墳は、奈良県の石舞台古墳など全国でもきわめて珍しいものです。直径 37m、高さ 7.3m。



石室は巨石で組み上げられていて、この巨石にまつわる伝承も伝えられています。石室内からは組み合わせ式木棺が安置されていたことを示す棺釘(かんくぎ)、鉄鎌(てつぞく)、須恵器、土師器が見つかっています。

石室内に入って見学することもできます。



#### ◆巨石にまつわる伝承……1

昔、西都原には力持ちの鬼が住んでいました。そんな鬼にも一つだけ思い通りにならないことがありました。それはお嫁さんのことでした。ある日、鬼は、それはそれは美しい娘コノハナサクヤヒメを見かけました。

「あの美しい姫を嫁にしたいものだ。しかし私は見るからに恐(おそ)ろしい鬼。どうやってあの娘を嫁にしたものか」と、いろいろと考えました。そこで、鬼は父親の山の神オオヤマツミを訪(たず)ね、お願いをすることにしました。

「どうか、コノハナサクヤヒメを私の嫁にください」

それを聞いたオオヤマツミは大弱り。何しろ、相手は恐ろしい顔をした鬼です。美しいコノハナサクヤヒメが鬼のプロポーズを受けるはずがなく、オオヤマツミもかわいい娘を鬼のお嫁さんにする気などさらさらありません。

「話は分かった。明日の夜明けまでに、大きな石の岩屋をつくることができたなら、娘を嫁にやろう」

それを聞いた鬼は、さっそく岩屋をつくりはじめました。何しろ、とてつもない力持ちです。石の岩屋など、たった一晩でつくりあげてしまいました。

それで安心した鬼は、うつら・うつらと寝てしまいました。そこへ、心配になったオオヤマツミが様子を見にきました。すると、大きな石を積んだ大きな岩屋ができ上がっているではありませんか。おどろいたオオヤマツミは、あることを思いつきました。さて、夜が明けて鬼が起きてみると、ちゃんと完成したはずの岩屋の石が一枚抜けています。鬼がふしぎがっているところにオオヤマツミがやって来て

「石のぬけた岩屋では、娘を嫁にやることはできん」と言い、鬼の申し入れを断りました。

岩屋の消えた一枚の石・・・それは鬼が眠っている間に、オオヤマツミが抜き取って遠くに投げてしまっていたのでした。(ひむか神話街道…50の物語集より)

#### ◆巨石にまつわる伝承……2

コノハナサクヤヒメに一目ぼれしたニニギノミコトが、ヒメの父・オオヤマツミノミコトに会い、「結婚をさせて欲しい」と申し込みんだが、オオヤマツミノミコトは「私と力比べをし、勝ったら結婚を許そう」と言い、鬼の窟へニニギノミコトを連れて行った。

オオヤマツミノミコトが窟の石をひとつ抜き取って、北に投げ飛ばすと石は坂の上で止まってしまった。次にニニギノミコトがひとつ石を抜き、投げると坂の下まで飛び、勝負に勝ち、ミコトとヒメは結婚した。

**どちらの伝承も、天上の石が一つ抜けているのはそのためだとされています。その天上石といわれる石が、東側の石貫階段をくだった所にある石貫神社にまつられています。**

#### ■飯盛塚(169号墳)

男狭稲塚の陪塚とされる円墳です。西都原古墳群では最大級の円墳で、径 44m、高さ 7m、3段で築かれ周溝をもっています。大正時代と平成の再調査で「舟形埴輪」「子持家型埴輪」などの重要文化財が出土しています。



#### ■13号墳

規模は、墳長 78.5m、前方部幅 26m 高さ 4.1m 後円墳の径 45m、高さ 6.7m となっている、いわゆる柄鏡式の前円後円墳です。

大正 5 年の第 5 次調査によって、三角縁三神獣鏡（さんかくぶちさんしんじゅうきょう）や、まが玉（翡翠）、くだ玉 40 数個、小玉（濃青色ガラス製）等の装身具、刀子、鉄剣等が出土しています。平成 8 年度からの調査でこの古墳は 3 段築成の前円後円墳で“葺石”が施されていた事が確認されました。

遺構内部には長さ 7.8m、高さ 45cm、下幅 2.1m、上幅 1.2m の細長い土壇状土床が設けられ、土床の表面には礫石を納置し、その上に長方形の木棺を埋葬したようです。

13 墳は見学施設となっていて、中に入れます。内部にはレプリカの鏡などが置かれています。





### ■酒元ノ上横穴墓群

平成6年の発掘調査により発見された酒元ノ上横穴墓群は、現在10基の墓道に6つの玄室、二重の溝を持つ円墳で構成されていて、西都原古墳群で初めて確認された地下式横穴墓です。恵器や土師器、耳環、人骨等が出土しており、前述の鬼の窟古墳と同時期に造られたと思われます。なお、この遺跡は大雨による土砂の流出で現れた遺構なので、再び流されないように施設が覆われています。



全国にはたくさんの古墳がありますが、西都原古墳群は密集して造られている「群」としては、そのつくられた広さや時間の長さ、それぞれの古墳が特徴を持っていることなどで、全国有数の古墳群として知られています。

ここで紹介した古墳はほんの一部です。ぜひ実際に現地を訪れ、ご自分の目で確かめ、古墳たちと語り合ってください。きっと時間を超えて、何かを発見できるでしょう。

## ■古墳時代とは

今からおよそ 1700 年前、弥生時代が終わった 3 世紀末～7 世紀末頃までの 400 年間は、巨大な墓づくりが行われた時代でした。そこでこの時代を「古墳時代」といいます。

弥生時代（中期ごろ）にも墳丘墓（ふんきゅうぼ）と呼ばれる大きな墓がつけられましたが、各地域に独自につくられ、形もいろいろでした。古墳時代になると、全国的に共通した形と内容を持つ古墳がつけられました。

全国の古墳の分布状況は、茨城県、群馬県、千葉県、奈良県、京都府、大阪府、岡山県、福岡県、宮崎県などが、全国的にみても古墳の数が非常に多い地域となっています。

このように、宮崎県は全国的にも古墳の多い県で、また、巨大な前方後円墳や横穴式古墳などが特に多い県となっています。

## ■古墳の種類

約 400 年におよぶ古墳時代には少しずつ変化があります。もっとも大きな変化は、5 世紀の終わり頃に横穴式石室が全国に広がったことです。このような古墳の変化から、古墳時代は大きく、前期、中期、後期、終末期に分けられます。

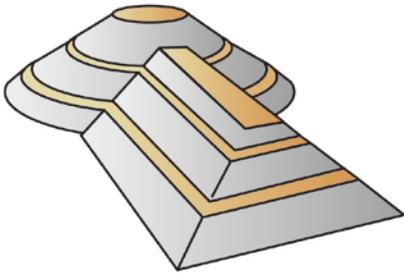
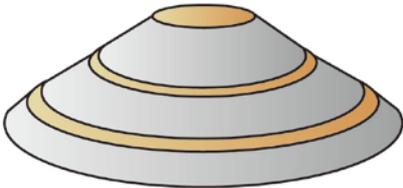
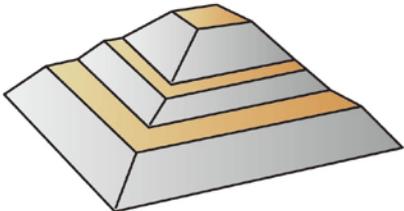
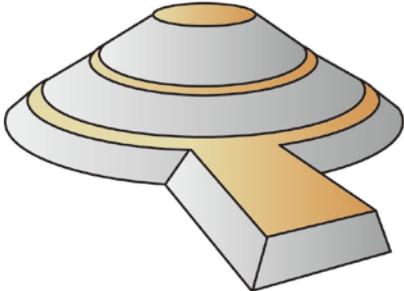
古墳時代は、色々な技術が大きく発展した時代でした。鉄の道具は農耕具、漁具、武器武具などあらゆるものに広がり、各種の工芸品の生産もさかんになり、鉄・玉・塩・埴輪（はにわ）、石棺（せっかん）などを専門につくる集団も現れました。

古墳は墳丘（ふんきゅう）と周濠（しゅうごう）などからなり、土や石を積み上げた墳丘には、遺骸や副葬品をおさめる内部と、外側を守ったり、飾ったりする外部施設があります。

古墳の呼び方は、墳丘の形によって変わります。

主な古墳は、古墳時代の前期から、前方後円墳や円墳、方墳、帆立貝式古墳などがあります。

内部の施設は主に 2 種類あり、竪穴式石室と中期に出現する横穴式石室があります。

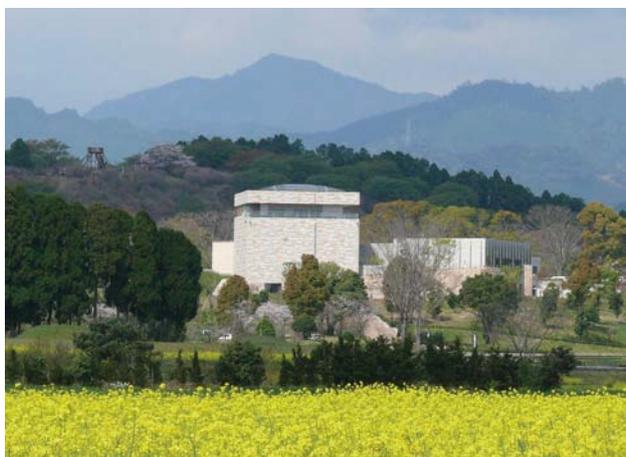
古墳の主な形	
	
前方後円墳	円墳
	
方墳	帆立貝古墳

## 2 宮崎県立 西都原考古博物館

西都原考古博物館は、日向古代史を主テーマにした考古学専門の博物館で、「常新展示」をコンセプトに平成16年4月にオープンしました。縄文時代から弥生・古墳時代にかけての南九州の歴史を、豊富な資料と最新の技術で紹介しています。

- ・入場無料 ・開館時間:午前10時～午後6時
  - ・休み:月曜日、祝日の翌日、12月28日～1月4日
- 〒881-0005 宮崎県西都市大字三宅 5670 TEL. 0983-41-0041

●詳しくは→宮崎県立西都原考古博物館 <http://saito-muse.pref.miyazaki.jp>



●様々な企画展や講座も開かれています。また、事前に利用申込書にて申込を行えば、案内ガイドもお願いできます。西都原に行ったら、ぜひ一度は訪ねたい博物館です。



博物館内部



博物館3階からの眺め

### ■古代生活体験館

西都原考古博物館に隣接して古代生活体験館があります。石を使った「まが玉」づくりや楽器づくり、火おこし、弓矢での的当てなどの体験ができます。

この棟と渡り廊下で結ばれたセミナー棟もあり、こちらではビデオなどでの全体説明を受けられます。

〒881-0005 宮崎県西都市三宅西都原 5670 TEL. 0983-41-0041



### ■西都原ガイダンスセンター「このはな館」

古墳群の概要をはじめ、西都市周辺の史跡などの案内や観光情報の提供、地場製品の販売、古代食の体験など多彩なサービス機能を備えています。

西都市観光ボランティア協議会も隣接していて、申し込むと観光ボランティアの方に、観光ガイドをお願いできます。

〒881-0005 宮崎県西都市大字三宅 4941-1 TEL. 0983-43-6230

●詳しくは→西都原ガイダンスセンターこのはな館 <http://www.saito-kankou.com/konohanakan/>

